



中西 準子

なかにし・じゅんこ
工
学博士。横浜国立大学名誉
教授。環境リスク評価。文
化功労者。76歳。

の功績であるが、その後の裁判で大
きな役割を果たす、原因を証明する
ための伏線図のようなものを宇井さ
んは見つけた。それが後述する細川
ノートである。

私は、たまたま宇井さんと同じ大
学の同じ学科に所属していたので、
宇井さんの生き方をずっと見続け
た。宇井さんは多くの書物を残して

病の原因を突き止めていくまでの過
程が克明に書かれていて、未知の原
因を突き詰めることの困難さに気が
遠くなるような気持ちになり、それ
でもやがて突き止める、その知的な
スリルに引きつけられた。

この連載には、原因究明に向けた
もう一つの流れが書かれている。「書
かれざりし一章「ユリイカ!」(見
つけたぞ!)と題された章である。
当時の日室病院(新日室水俣工場付
属病院)院長の細川一博士らが、工
場排水でネコに水俣病が発症するこ
とを見つけ、それが、工場排水中に
含まれる有機水銀によることが明ら

井純セレクション」全3巻(新泉社)
を見るとよく分かる。「水俣病」の
第1巻も収録されているが、注目さ
れるのは、第3巻の冒頭の写真家桑
原史成さんの「宇井さんの歴史が動
いた日」という短い文章である。「1
962年8月11日は彼の人生の歴史
が動いた日であったと思います」と
ある。

宇井純さんと細川ノート

いるが、その中で私が最も好きなの
は、富田八郎というペンネームで書
かれた「水俣病」である。ペンネー
ムは「とんだやろう」と読ませるら
しい。非売品で「水俣病を告発する
会」から印刷されたことがあるが、
私が読んだのは、合化労連という労
働組合の機関誌に連載されていた記
事である。連載には、研究班が水俣

に異なるかなども書かれている。特
に印象深かったのは、研究班が最初
は水銀が原因物質とは想定せず、他
の金属を追っていく過程であった。
連載の中で、早期に有機水銀に目を
つけた徳臣さんの名前が他の研究者
の方と一緒に度々現れる。おそらく
30回以上。それが、私の頭の中に
びりついていた。

かになった時の報告書、細川ノート
である。外側から原因究明を続けて
いた研究班の到達した結論と全く同
じだが、報告書は会社の倉庫の中に
しまわれて、外に出ることはなかつ
た。
その後、この報告書はどうなった
か?
それが、今年7月に出版された宇

細川博士の実験結果は秘密になっ
ていた。それを知った宇井さんが院
長を辞めて郷里に戻っていた細川博
士を訪ねた。最初は見せなかった細
川博士が翌朝になり、宇井さんに見
せた。その瞬間がここに書かれてい
る。ノートはすぐには公開されな
い。が、やがて裁判で細川博士が証言を
することになる。
細川博士の誠実さに接したこと、
そして細川博士が宇井さんを信用し
てそのノート11冊を見せたことが、
宇井さんの一生の活動を支え続け
た。

長年水俣病の原因究明に力を尽く
し、熊本県公害被害者認定審査会会
長などを歴任した徳臣晴比古さんが
8月に亡くなったという報に接し
た。90歳を超して長寿を全うされた
ことは、それまでの苦勞を考える
と何かほっとする思いであった。こ
のように書くとは、とても親しかった
と思われるかもしれないが、実は一
度もお会いしたことがない。お名前
を2006年に亡くなった宇井純さ
んから聞いた話と書物から知ってい
ただけである。

科助手の時代に水俣病と出会い、公
害反対運動に生涯を捧げた。わが国
では2度水俣病が発生した。一つは
熊本県水俣、もう一つは新潟県阿賀
野川。宇井さん自身が水俣は傍観者
だったが、新潟は当事者として動い
たと表現していたが、原因究明から
裁判での証人など、一貫してその中
で活動したのは確かに新潟阿賀野川
である。
本人は謙遜をこめて、水俣では傍
観者と言っていたが、それはとんで
もない。確かに原因究明は熊本大学
医学部水俣病研究班(以下研究班)

いるが、その中で私が最も好きなの
は、富田八郎というペンネームで書
かれた「水俣病」である。ペンネー
ムは「とんだやろう」と読ませるら
しい。非売品で「水俣病を告発する
会」から印刷されたことがあるが、
私が読んだのは、合化労連という労
働組合の機関誌に連載されていた記
事である。連載には、研究班が水俣

に異なるかなども書かれている。特
に印象深かったのは、研究班が最初
は水銀が原因物質とは想定せず、他
の金属を追っていく過程であった。
連載の中で、早期に有機水銀に目を
つけた徳臣さんの名前が他の研究者
の方と一緒に度々現れる。おそらく
30回以上。それが、私の頭の中に
びりついていた。

かになった時の報告書、細川ノート
である。外側から原因究明を続けて
いた研究班の到達した結論と全く同
じだが、報告書は会社の倉庫の中に
しまわれて、外に出ることはなかつ
た。
その後、この報告書はどうなった
か?
それが、今年7月に出版された宇

細川博士の実験結果は秘密になっ
ていた。それを知った宇井さんが院
長を辞めて郷里に戻っていた細川博
士を訪ねた。最初は見せなかった細
川博士が翌朝になり、宇井さんに見
せた。その瞬間がここに書かれてい
る。ノートはすぐには公開されな
い。が、やがて裁判で細川博士が証言を
することになる。
細川博士の誠実さに接したこと、
そして細川博士が宇井さんを信用し
てそのノート11冊を見せたことが、
宇井さんの一生の活動を支え続け
た。